



山荘からと登りて見晴しのよりピークへ着く。一年振りの穂高連峰に對面して早速カメラを出す。快晴ではないが、岩稜の輪郭だけはよくわかる。槍も蝶も常念も悠然と見える。ナシを食べながらコースタイムを検討し尾根を走り下る。蝶ヶ岳ヒュッテへ登りついでヤレヤレと。

右折レ〜長命水
ザンザン流る谷から離れ急に高度を稼ぐ。山道に入る。木々の間からちらっと眺める滝は、羽衣の滝。「お水かな〜」と思いつながら米ツガ急登を行く。倒木二本をまたぎ一旦沢へ出るが、右へのジグザグに入る。丁度30分で流水出ている岩清水の前へ出る。「これが長命水かな〜」と見て飲んでみる。冷たい水だ。顔を洗って山菜おにぎりを食べ、ナシを食べる。

倒木の橋〜右折レ
汗ばんだ背中に解放感を味わって沢筋の道を詰めて行く。沢が二つに分れ左股は地図上の羽衣の滝から蝶ヶ岳ヒュッテへセリ上がっている。右股に沿った方の沢のヘリに登る。ニヌを少し過ぎた箇所でも明るく広げた川縁に出る。

大エンテイより30分で丸木橋を渡り左岸を行く。急に歩きづらくなった道を上り下りしながら倒木の橋を注意して渡る。この先ずと川筋の道を矢印により高巻いた沢へ降りた倒木をくぐったり中60ほどの狭い道を汗をかきながら緩やかに登る。

8:40 沢を渡り赤印の小径を行く。途中赤くなったイチゴを食べる元気を出す。乾いた喉には甘酢はり野苺がもうまい。道は中80と広くなり高みの良い道で足も軽くなる。沢に浸った青い苔をつけた古い倒木が印象的だ。樹林で薄暗い箇所が続く。時には倒木をまたいだりして9:00に危険な倒木をバランスよく渡る。

長命水〜近道分岐
長命水の冷たい水に入れ替えて出発する。ジグザクの曲りくねった米ツガ・シラビソの道がずっと続く。常念小屋へ16時頃につくと話しあった谷田さんのことが気になって、少しでも時間を縮めなければと気がせく。遂に右折に気付かず直進して土手を乗り越え、源流の淵沢状の箇所へある。間違っ入り込んだなあと思ったと人足跡が怪しくなる。このコースで間違っるのはこの箇所だと思ひ早速引返して右折点の赤テープから右へ登る。登るほどに道中もユルユルで良い道の栗石混りの緩やかな斜面だが、長い道のりだ。やっと思ふくはなりパーッと開けた斜面の広場へ出る。

蝶ヶ岳ヒュッテ〜蝶ヶ岳
静かな蝶ヶ岳ヒュッテの前へ下ってから、少し登ってピーク上の展望台で山の方位盤を見定める。この先、コースは二重山稜となり左側(西)のななとしたハイマツの生える稜線がゆるやかに下つたり登つたりしている。左に槍穂〜正面に蝶ヶ常念を見ながら足はかきよく歩く。横尾からの分岐を過ぎて間もなく、多数群羊がはっている三角点のある道標前につく。あまりにも平凡な頂上でもやっぱりここからの槍穂を眺めておこう。大阪から横尾コースで来たという5人パーティーと話しながら休憩。彼等も常念小屋まで行くというのでリーダーの後からついて行くことにする。

出発から〜河童橋
気にしていた台風が速く、連休(9/13〜9/15)にかからなかったのを幸いに、9月12日中央線の夜行列車に乗る。松本で中房温泉から登る谷田さんと別れ、駅前よりタクシー相乗りで上高地へ。5時迄閉鎖している釜トンネルの門の手前で停車、5時半迄は真暗な時期、帝国ホテルを過ぎた付近でタクシーのライトで振り向く野兎、一瞬目が光ると飛んで逃げ去る。上高地バスターミナルで降り、「朝食は景色のよい河童橋で」と、休憩所まで5分歩く。夏の雑踏から解放された河童橋周辺の次第に明けゆく風景を眺めながら助六寿しを頬張る。台風の影響も十分吸った木々は青々とし、梓川の流水も威勢がよい。空は奥穂高岳に衣を引掛けたように薄く黒雲がかかり、台風一過の快晴ではないが、晴水に間違いない。すっかり明るくなり、幾組かのパーティーが通るようになる。橋のたもとで写真もとり出発する。

河童橋〜徳沢
梓川に沿った樹林の間の広い道を行く。朝は夏でも涼しい上高地。9月中旬ではもう冷え込む寒さで眠気もとれて、ハイスで歩く。明神分岐も過ぎ樹林の静寂な道を徳沢へ。今回は単独行で足は速い。徳沢まで普通1時間半を1時間分で行く。夏と違って徳沢圏手前のテント場も閑散としている。

徳沢〜大エンテイ
徳沢圏の右へ入る。計画のすぐ左へ入る長堀山コースを変更して、広い良い道を直進する。8分ほど道は開け大エンテイ前に着く。右に徳沢の音が響き流れが見える。正面に大滝山登り口のペンキ印を見てコースタイムを検討。

大エンテイの左側のハシゴに登り河原へ。台風おとの水流は激しい音をたてて流れている。右岸の河原の小径をたどり、高みをゆるく登って行く。